



風景の句読点

Punctuation of Scene

第8回

① 緑道「くさぶえのみち」

日本工営株式会社／コーポレートコミュニケーション室
村井 啓泰 MURAI Hiroyasu (会誌編集専門委員)

港北ニュータウン

緑道でつながる街
(神奈川県横浜市都筑区)



日本有数の大規模ニュータウン

神奈川県北東部、横浜市都筑区内に広がる「港北ニュータウン」は、総面積2,530ha、計画人口22万人に及ぶ国内でも有数の規模を誇るニュータウンである。1965年に横浜市六大事業のひとつとして計画され、約30年を経た1996年に区画整理事業が完了した。

「港北ニュータウン」の名称は、現在の横浜市港北区、緑区、青葉区、都筑区が、計画当時すべて「港北区」であったことに由来する。比較的新しく開発されたエリアであるため、既に完成していた他のニュータウンの事例も参考にした先進的な開発手法が数多く盛り込まれている。

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたいような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



② 北山田のツツジ

グリーンマトリックスシステム

港北ニュータウンの基盤になった開発手法が「グリーンマトリックスシステム」である。グリーンマトリックスシステムとは地区内の緑道を主骨格とし、集合住宅、学校、企業用地等のスーパーブロックの斜面樹林や屋敷林など民家の緑を公園緑地等の公共の緑と束ねて連続させ、さらに歴史的遺産、水系なども結合させて再構築したもので、地区全体における空間構成の要としている。

こうして形成された総延長約15kmの緑道が街全体を囲むように張り巡らされ、港北ニュータウン独自の魅力を作り出している。実際に緑道を歩くと大量の緑に柔らかく包まれる心地良さを感じる。

緑道の風景

初夏の緑道は美しい。光と新緑が目眩しく、赤紫や白のツツジが彩を添える。また緑道は、単なる自然鑑賞

の場所というだけでなく日常生活の場として根付いている。

早朝、小型ラジオを胸ポケットに入れ、大きな音を流して散歩するお年寄り。その横を軽やかに走る朝練中の中高生。日が高くなるにつれ数を増す犬の散歩組。黄色やオレンジ色の帽子を被り、手をつないでひと固まりで歩く保育園の集団。木陰のベンチで本を読む青年。野鳥を狙うカメラマン。会話を楽しむ日傘の女性グループ。夕方にはジョギングに繰り出すお父さんと、黙々と歩く老夫婦。それぞれが思い思いの時を過ごしている。



③ 発祥の記念碑

良き道辿れば良き里あり

センター南駅近くの都筑中央公園内の杉山神社鳥居脇には、港北ニュータウン発祥の記念碑がある。そこに刻まれているのは『良き道辿れば良き里あり』の言葉。そこには先祖伝来の家が壊され、田畑が埋められていくのを見守る辛さや、新しい生活への不安を乗り越えて、良いまちをつくるという強い決意と決断をした多くの地元の人たちの願いが込められている。

<参考文献>

- 1) 『絵で見る 港北ニュータウンものがたり』特定非営利活動法人港北ニュータウン記念協会 2019年
- 2) 『港北NT GREEN MATRIX SYSTEM』住宅・都市整備公団港北開発局 1996年
- 3) 『失われたものの記録「望郷」』男全富雄 1999年

<写真提供>

①～③:筆者